

二〇二三年度

山梨英和大学

一般選抜A日程試験問題

国語

注意

- 一 問題用紙解答用紙の冊子は、試験開始の合図があるまで開けないで下さい。
- 二 試験開始直後に次のことを確かめ、解答用紙を冊子からはずして使用して下さい。
 - ア 問題用紙は表紙を除いて四枚です。ページの順番も確認して下さい。
 - イ 解答用紙は、一枚です。
- 三 受験番号は、解答用紙に記入して下さい。氏名は書いてはいけません。
- 四 答えは解答用紙に記入して下さい。
- 五 問題用紙は、試験終了後、各自持ち帰して下さい。

国語

次の問題文を読んで、後の問に答えなさい。

人は何かを語るとき、どうしても自分の経験をサンショウする。だから、私の場合、サツコンの高校における学習指導要領の改変、大学入試の改革等も、この私のような高校生がいるとして、その目線から論じてみたくなるのだが、ここで書いてみたいのは、国語教育改革についてだ。

しばしば論じられるのが、「現代の国語」を「論理国語」と「文学国語」に分割するという「改革」だ。どこからこのような発想がでてきたのか理解に苦しむが、多くの人が指摘しているように、文学的な感性や想像力をもたない論理はないし、また、それなりの内的な論理をもたない文学もない。この原則の一事に立つだけでも、これがほとんど無意味な「改革」であることは論をまたないであろう。この30年、われわれは、いったいどれだけの「改革」を見てきたのだろうか。そしてそのほとんどが「改悪」であった。

(a)、(c)で気になるのは、その(I)な事情である。それは世界の15歳の生徒を対象にしたOECD (経済協力開発機構) のPIISA (国際学習到達度調査) における日本の地位の低下だ。2003年に読解力低下のPIISAショックが生じた後、多少の紆余(うよ)曲折の後に、この12月に公表された読解力において日本は15位と過去最低順位をコウシンした。

この事情が国語能力への危機感を高めたことは想像に難くない。とりわけ実用文の読み取り能力が低下している、という。(b)、論理国語を重視し、実用主義の方向で学力を向上させる、という。もっと有り体にいえば、PIISAで恥ずかしくないように学力を向上させる、ということだ。

PIISAを指標とした名誉挽回(ばんかい)とばかりの読解力の向上など無意味だと思えないが、それは別としても、確かに、若者の読解力や表現力が著しく低下しているという印象はぬぐえない。いや、若者だけではない。大人も大差ない。居酒屋で近辺から聞こえてくる大人の会話の、ガイリヤク、内容と表現力の欠如を大声やカラオケでカバーするという、もうおなじみになった光景をあえて論じるまでもなかるう。電車やバスに乗れば、大人も若者も、ひたすらスマホに見入っている。

子供のうちから、スマホとゲーム漬けになり、降り注ぐような情報にさらされ、万事を情報処理として受け止める若者たちから読解力も表現力も失われてゆくのは当然のことであろう。大人とて同じことである。われわれは、この20年ほどで、まさにそういう種類の社会を意図して作りだしてきたのだ。過度な情報化と競争社会が、社交というものの作法を失わせたのである。

しかしここにもうひとつの要因がある。先日、あるレストラン経営者と話をしていたら、次のようなことをいっていた。若い者が修業にきても、簡単に叱れない。(c)、「君はどうしてそれをやりたいのか、ちゃん

と説明してくれ」ともなかなかいえない。少し強くいうと、パワハラだといわれかねないからである。その種
のことがネットで拡散すると仕事にさしつかえるからだ、という。

確かにこうした風潮が社会をオオ^⑤っている。明らかにPC（ポリテイカル・コレクトネス）が行き過ぎてい
るのである。もちろん、とんでもないパワハラが現実には教師の間でさえも生じているのだから、パワハラは告
発そのものが悪いわけではない。だが、あまりに単純化された正義が絶対化されてしまい、反論を許さない、
という風潮ができてしまった。

戦後日本社会では、平和主義や民主主義、平等主義や人権主義などは憲法で保障された絶対的な正義とされ、
その憲法そのものがあたかも聖典であるかのように祭り上げられた。その結果、これらの正義に対する疑義は
あらかじめ正当性を剝奪（はくだつ）されてしまった。逆にまた、それに反発する側も敵対的な論難を仕掛け
るだけという傾向が強い。

学校という場にあてはめれば、みんな仲良く、平和が大事、誰もが平等、他人にやさしく、などといった耳
当たりのよい概念があらかじめ思考の着地点になってしまった。そこで、この着地点に納得のいかない者は、
陰で暴力をふるうか、学校からドロップアウトすることになる。これでは思考もピンコン^⑥になるだろう。

（d）、漢字の使用が制限され、難解な文章の読解が忌避^⑦され（これもあたかも暗黙のパワハラであるかに
感じられたのだ）、できるだけ身近な読みやすい教材が選ばれる、ということになる。そこにツイッターなどの
「いいね」式の文章やLINEの短いメッセージが横行すれば、読解力も表現力も低下しない方が不思議だ。

読解力とは、著者の意図を正確に読み、かつそれを自分なりに解釈することである。著者の意図を正確に読
み取るには、著者の立場や気持ちがわからなければならない。そのためには、それなりの経験と想像力がある。
経験と想像力を養うには、様々な障害とぶつかり、自明とされていることに疑問をもち、それらを自分の頭で
考えてみなければならない。正しい結論などどこにもない。誰もそれを教えてはくれない。

ものを考えるには時間がかかる。（G）を繰り返すしかない。これは、孤独で面倒でいやな作業であろう。
だから、この孤独でいやな作業の手助けをする者が必要なのであって、それこそが学校であり、教師であり、
家庭であり、場合によっては友人や知人であり、時には、読書なのである。

⑧ 国語の読解力が大事なのは、翻訳も含めて、国語で書かれた文章のなかに、先人たちの経験やそれをもとに
したシサク^Hの跡が刻印されており、それを知ることがわれわれの想像力をかき立て、また鍛えるからである。
それを鍛えることによって、大人になって社会にでてからの他者との社交もよりよきものとなる。

（e）そのためには、古典とされる文学も、少々難解とされる思想書も読まなければならない。その程度
の難解さに直面し、答えの見えないなかを（G）することが、現実の人生における難問を前にして多少は
役に立つこともあるだろう。そして、そのためには、先人の残した古典や文学や思想への敬意がなければなら
ない。

かつては、社会全体にそのような敬意があった。権威もあった。しかし、戦後の日本では、先人の残した経験や古典への敬意は低く見積もられ、社会でも学校でもあらゆる次元で権威が破壊されていった。その上に、フェイクも駄弁も^⑨チュウショウも平等にふりまかれるこの情報化社会がやってきた。このなかで古典や思想や偉大な文学への敬意を回復するのは容易なことではなからう。今日、われわれを取り囲んでいる、この過剰なまでの情報と競争の社会、短期的な成果主義や万事における革新主義(改革論)、それに行き過ぎたPC、という時代風潮こそが、読解力への障害となっていることを肝に銘じなければなるまい。

Ⅱに示され、成績で評価される学力を向上させたければ、わかりやすいⅢ文章を読ませ、難解でⅣな思想や文学は避ければよいだろう。しかし、それが本当の意味での読解力にもならなければ、文章から何かをえるという人生経験にもならないことは明らかである。

だが、だからこそ、われわれはひとつの大きな岐路に立たされ、Ⅴな選択に直面している。高度な情報化とグローバリズムのなかで世界的な競争に勝ち抜く人材を育成し、あらゆる分野で学力の向上を目指すべく教育改革を断行するという方向が一方にある。今日の英会話能力の向上などもその方向を向いている。他方には、国語力を、生の経験の基礎的な訓練とみなして、国際競争力などに振り回されることなく、思想や文学の基礎的な読解を時間をかけて訓練する、という方向である。私は躊躇(ちゅうちよ)なく後者こそが必要だといいたい。

今日、学力向上が^J至上命令になり、学力低下が起きるとすぐに「改革」が行われ、ただただ学校教育現場の負担がふえる。これでは、まったく逆効果である。問題があることは事実だが、その解決のために、負担を^K力するのではなく、余計なものをできるだけ減らして、^Kもつとも根本的なところへと立ち返るべきなのである。

(佐伯啓思の文章)

問一 傍線部①～⑩のカタカナは漢字に直し、漢字には読みをつけなさい。

問二 空欄(a)～(e)に当てはまる最も適当な接続語を、次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ただ イ やはり ウ ところで エ しかし オ また
カ しかも キ さらに ク 結局 ケ そして コ したがって

問三 空欄Ⅰ～Ⅴに当てはまる最も適当な語句を、次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 機能的 イ 背景的 ウ 決定的 エ 中心的 オ 客観的
カ 主観的 キ 理論的 ク 数値的 ケ 実用的

問四 傍線部A「紆余曲折」、B「想像に難くない」、C「有り体にいえば」、J「至上命令」の意味をそれぞれ答えなさい。

問五 傍線部Dのように「無意味」だと主張しているのはどうしてか、その理由を本文の内容を踏まえた上で、説明しなさい。

問六 傍線部Eに言われている社会とは、どのような社会のことか答えなさい。

問七 傍線部F・Hの指示語は何を指しているか、それぞれ答えなさい。

問八 二箇所の空欄（G）に共通して当てはまる語句として最も適当な四字熟語は何か、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 暗中模索 イ 右往左往 ウ 試行錯誤 エ 一進一退 オ 刻苦勉励

問九 傍線部Iの「時代風潮」とはどのようなものか、筆者の主張を踏まえた上で、50字程度で答えなさい。

問十 傍線部Kとはどのようにすることなのか、筆者の主張を踏まえた上で、50字程度で答えなさい。